



1月中旬から後期（2nd Semester）が始まりました。後期が始まってから少しした頃に大雪が降り、2週間ほど学校が休校になりました。雪が降ったのは3日ほどでしたが、雪が積もったということで1週間半ほど休校が続きました。車で通学する生徒が多いことも休校が長引いた原因かなと思います。休校とはいえ、教授によっては録画された講義をアップロードしたりZoomでオンライン授業をしたりしていました。パンデミックを経験したために、このような切り替えができるようになったと教授が言っていました。



授業

後期の授業は、社会心理学 (Social Psychology)、生物心理学 (Biopsychology)、生涯発達 (Lifespan Development)、研究室経験 (Laboratory Experience) の4つを取りました。実は研究室経験以外の授業は、前回話していたように事前登録の時点では定員に達していたのですが、waitlist に登録して粘っていると最終的に本登録できました。社会心理学と生物心理学は 3000 番台の授業ですが、それぞれ島根大学でも履修していたため (生物心理学は神経・生理心理学に相当)、授業の内容が全然分からないということはないです。ただし、毎週小テストや Pop quiz という抜き打ちのテストが授業中にあるため (しかもその授業で習う内容も出てくる)、予習が必須となっておりかなり大変です。また内容も非常に多く、かつ細かいものを扱い、それらがテストに出てくるのでテスト勉強が非常に大変です。生涯発達の授業は 1000 番台の授業ですが、毎週の課題が多いので大変です。研究室経験は、前期でボランティアとして働いていた MoCCA Lab という研究室での作業が授業になりました。後期で取った授業はどれも心理学に関係しているため、大学院入試の勉強のつもりで受けています。

ちなみにですが、アメリカの大学院では GRE という国内共通のテストの点数、推薦状 (Recommendation letter) 2~3 枚、そして CV という学術内容に特化した履歴書のようなものが重要になってきます。CV には研究発表会などでの受賞歴、研究室での経験、ボランティア活動やインターンシップの経験などを書くことができ、活動実績によってはかなり長くなるようです。日本の大学院のようにそれぞれの大学が各々の入試試験を設定している訳ではないため、大学院への応募は5つ以上になることもあるようです。

教科書については、後期では3冊購入しました。大体1冊当たり80~100ドルのことが多く、全て新品を購入すると前期後期でかなりの出費になります。大学の書店では、新品、中古、1学期間貸し出し、などから選ぶことができます。また、オンラインショッピングで型が1つ2つ古いものを購入したり (例えば最新版が第12版 (12th Edition) の場合は第11版や第10版を探すなど)、大学の図書館で探したりなどして出費を抑えることもできます。

MoCCA Lab

前述の通り、後期ではボランティアとしてではなく授業として働くことにしました。

実は私が研究の手伝いをしている大学生から4月の Poster competition に参加しないかと誘われたので、前期で集めた実験データの分析をしながらポスターを作ることになりました。次回の定期報告では Poster competition がどのような感じだったかを書きたいと思っています。



EEG トレーニングに参加した時の様子